

令和4年度 学校保健概要調査

1 学校種別疾病異常の状況

(注) 被患率とは、定期健康診断において医師等により、疾病異常と診断された者の割合

被患率 \ 学校種		幼稚園	%	小学校	%	中学校	%	高等学校	%
20%以上30%未満		裸眼視力1.0未満	20.7%	裸眼視力1.0未満	25.5%	裸眼視力1.0未満 矯正視力1.0未満	26.2% 25.5%	矯正視力1.0未満 裸眼視力1.0未満	27.8% 20.2%
10%以上20%未満		むし歯 鼻咽喉頭疾患	15.1% 11.9%	むし歯 鼻咽喉頭疾患	18.8% 15.9%	鼻咽喉頭疾患 むし歯 肥満傾向	12.1% 11.8% 10.4%	むし歯	13.1%
1%以上 10%未満	8～10%			肥満傾向 矯正視力1.0未満	9.9% 9.8%			肥満傾向 鼻咽喉頭疾患 その他の眼疾患	9.3% 8.7% 8.4%
		6～8%	耳疾患	6.8%	耳疾患 その他の眼疾患	7.5% 6.3%	その他の眼疾患 耳疾患	6.2% 6.1%	
	4～6%	その他の眼疾患	4.7%	ぜん息 その他の歯の疾患及び口腔の疾病異常	5.6% 5.0%	歯周疾患(Gのみ) ぜん息	4.3% 4.1%	ぜん息	4.3%
		2～4%	心臓の疾患	2.8%	歯列・咬合の異常	3.3%	痩身傾向	3.0%	歯周疾患(Gのみ)
	その他の歯の疾患及び口腔の疾病異常		2.4%	歯周疾患(Gのみ)	2.3%	歯列・咬合の異常	2.7%	痩身傾向	3.2%
	肥満傾向		2.0%		その他の歯の疾患及び口腔の疾病異常	2.5%	歯列・咬合の異常	2.6%	
	ぜん息		2.0%				耳疾患	2.5%	
	1～2%	聴力異常	1.7%	心臓の疾患	1.6%	心臓の疾患	1.6%	心臓の疾患	1.7%
		矯正視力1.0未満	1.6%	皮膚疾患	1.4%	皮膚疾患	1.6%	その他の歯の疾患及び口腔の疾病異常	1.6%
		皮膚疾患	1.3%	痩身傾向 聴力異常	1.2% 1.0%			皮膚疾患	1.1%
1%未満	0.5～1%					せき柱側わん 聴力異常 腎臓疾患	1.0% 0.8% 0.7%	聴力異常 せき柱側わん 腎臓疾患	0.6% 0.6% 0.5%
		0.1～0.5%	感染性眼疾患 歯周疾患(Gのみ) 痩身傾向	0.2% 0.1% 0.1%	せき柱側わん 四肢の異常 腎臓疾患	0.5% 0.3% 0.3%	四肢の異常 顎関節の異常 胸郭異常	0.2% 0.2% 0.2%	顎関節の異常 貧血
	0.1%未満		胸郭異常 せき柱側わん 腎臓疾患 四肢の異常 貧血 栄養不良		胸郭異常 顎関節の異常 栄養不良 感染性眼疾患 貧血		貧血 栄養不良 感染性眼疾患		四肢の異常 胸郭異常 感染性眼疾患 栄養不良

※裸眼視力の被患率は、裸眼視力1.0未満の人数÷視力を測定した人数×100で算出。

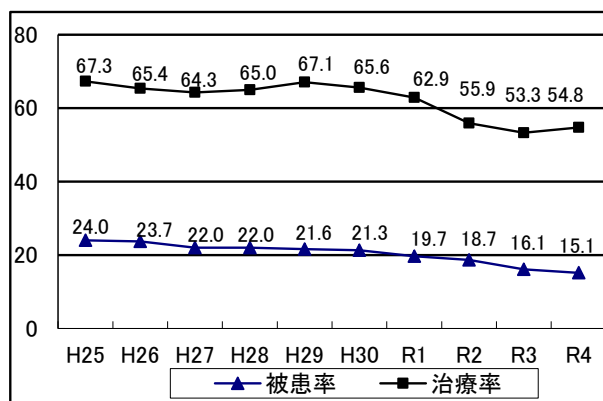
矯正視力の被患率は、矯正視力1.0未満の人数÷視力を測定した人数×100で算出。

○疾病異常を被患率別にみると、幼稚園及び小学校においては「裸眼視力1.0未満」が最も高く、次いで「むし歯」「鼻咽喉頭疾患」の順となっている。中学校においては「裸眼視力1.0未満」が最も高く、次いで「矯正視力1.0未満」「鼻咽喉頭疾患」の順となっている。高等学校においては「矯正視力1.0未満」が最も高く、次いで「裸眼視力1.0未満」「むし歯」の順となっている。

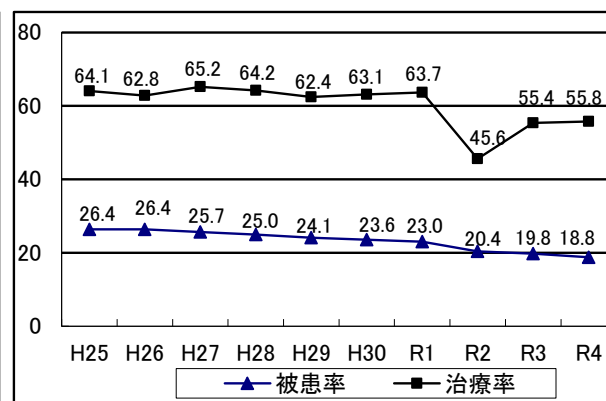
2 むし歯の状況

①治療していないむし歯（乳歯・永久歯）のある者の割合及び治療率の推移

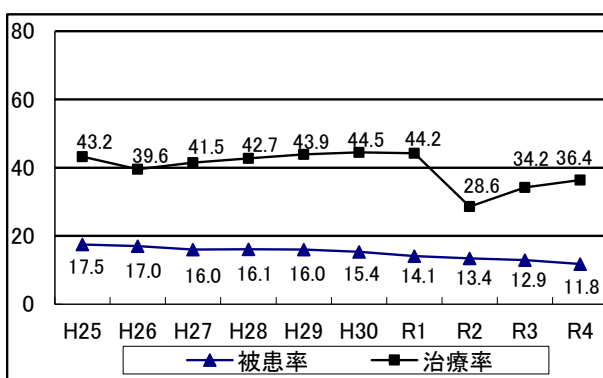
(%) 幼稚園



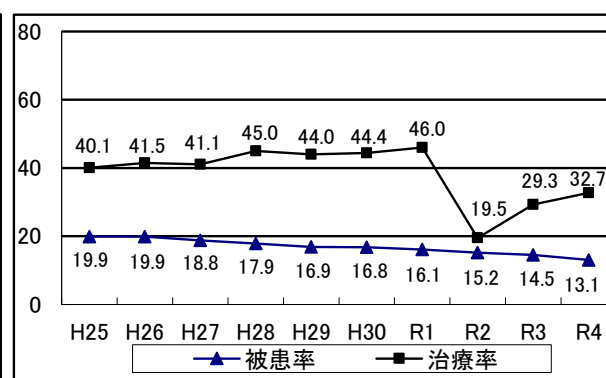
(%) 小学校



(%) 中学校



(%) 高等学校

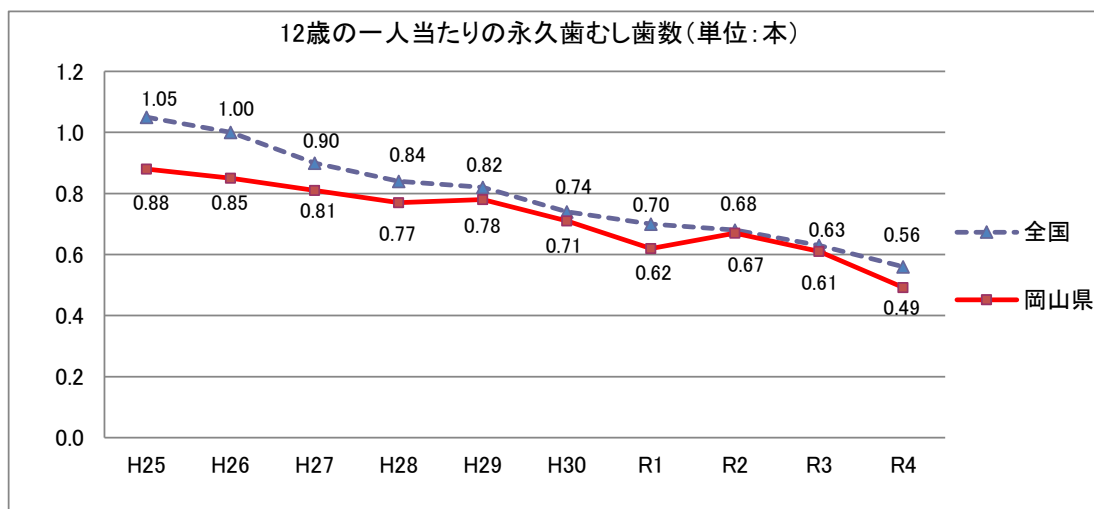


(注) 被患率とは、定期の歯科検診時における未処置歯保有者の割合。

(注) 治療率とは、定期の歯科検診後、むし歯の治療勧告を受けた者が、その年度の12月1日までに治療を受けた割合。

②12歳（中学1年生）の一人当たりの永久歯むし歯数（DMF歯数）の推移

※DMFとは・・・
 D（未処置歯）
 M（むし歯による喪失歯）
 F（処置歯）

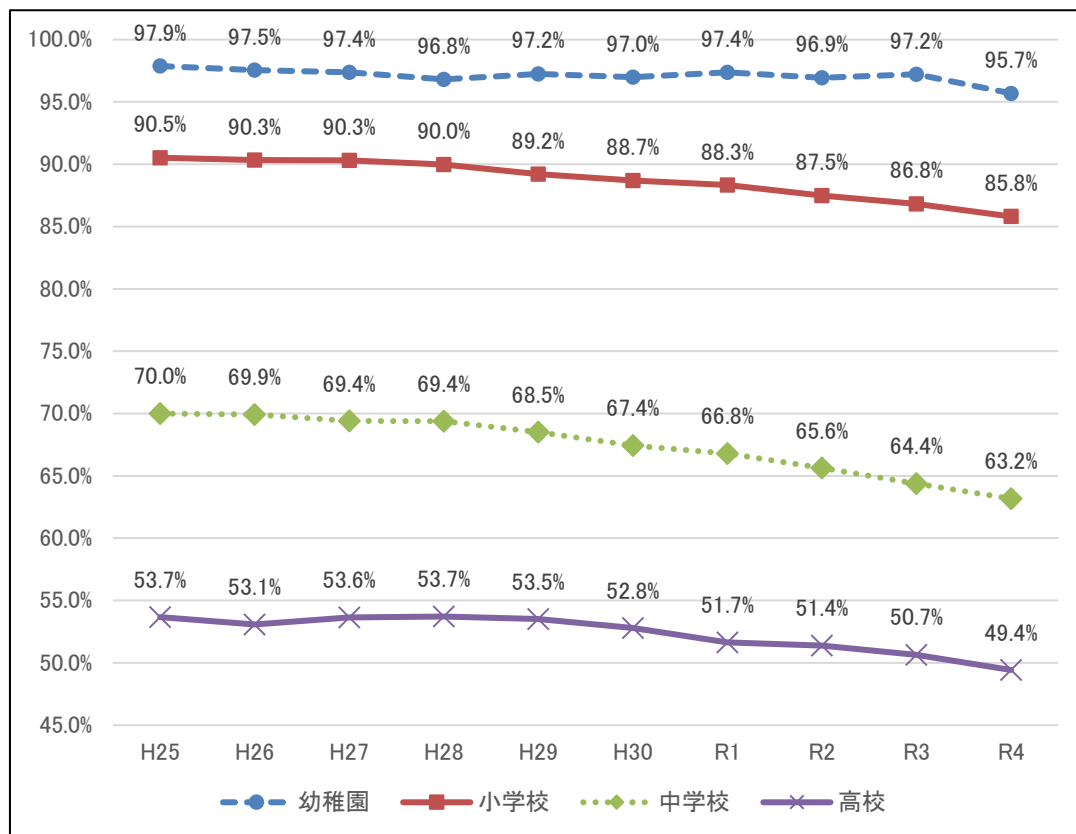


○むし歯の被患率は全学校種において減少傾向にある。治療率について、令和2年度は全学校種において例年と比較して著しく低下しているが、令和3年度以降は増加傾向にある。

12歳の一人当たりの永久歯むし歯数(DMF歯数)は平成23年度以降1本未満を維持している。

3 視力の状況

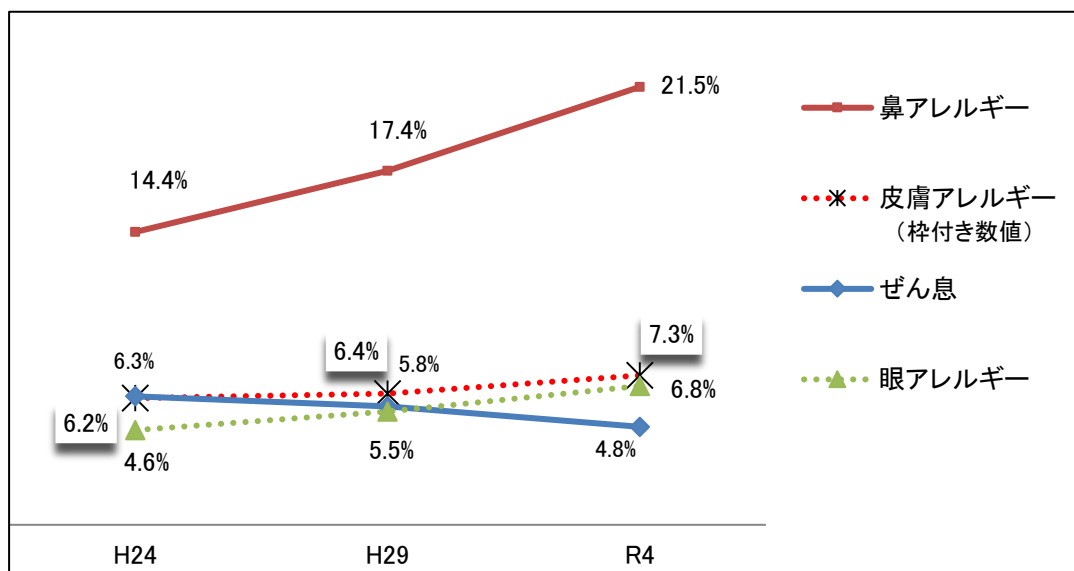
裸眼の視力検査を受けた者の割合



○10年前と比較すると、裸眼の視力検査を受けた者の割合は、全学校種において減少傾向にある。
特に中学校の減少率は、他の学校種と比較して高い。

4 アレルギー疾患・ぜん息の状況

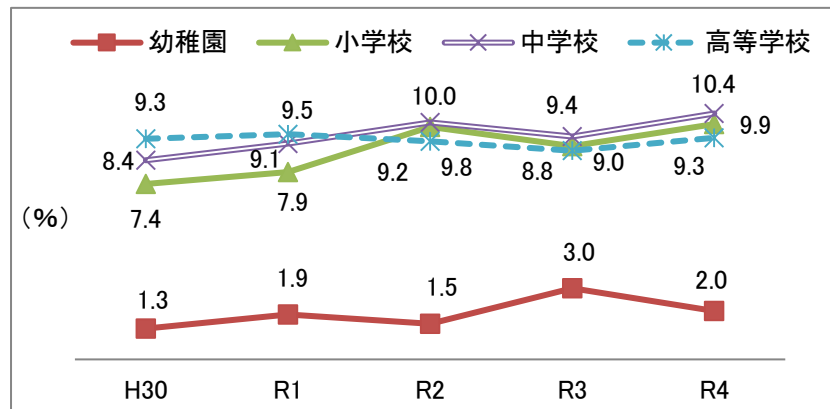
次の数値は、校医の診断及び保護者の保健調査票等から、学校が把握したアレルギー疾患を持つ児童生徒の割合である。



○10年前と比較すると、アレルギー疾患を持つ児童生徒が増加している。特に鼻アレルギーの増加は著しい。ぜん息は、減少傾向にある。

5 肥満の状況

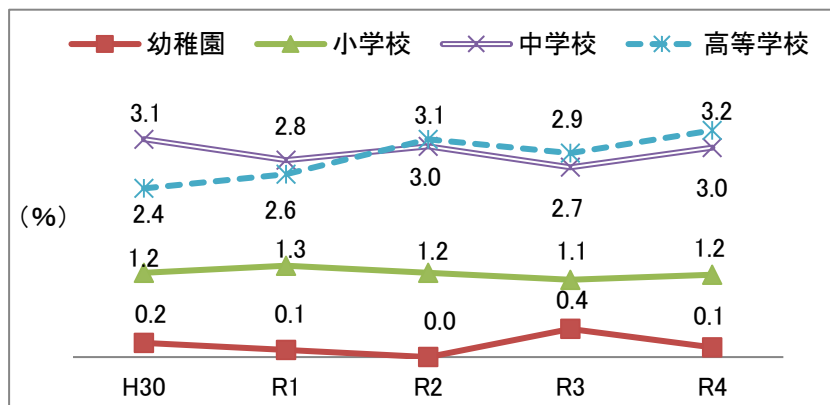
肥満については、「性別・年齢別・身長別標準体重」から算出した肥満度20%以上の者を肥満傾向としている。



○小学校、中学校及び高等学校においては肥満の発現率が前年度より増加している。

6 痩身の状況

痩身については、「性別・年齢別・身長別標準体重」から算出した肥満度-20%以下の者を痩身傾向としている。



○小学校、中学校及び高等学校においては痩身の発現率が前年度より増加している。